

# 絆

—きずな—

### 新たな「まちづくり」を求めて！ 社会教育委員からの提言

「家庭教育」を基本とした、新たな「まちづくり」の視点にたった生涯学習の在り方について、3人の社会教育委員さんから提言がなされましたので紹介します。

#### 須恵東中学校校長

#### 荒木照信さん

## 「絆」



荒木さん

はじめに

私は、50数年の人生の中で多くの節目を刻み、そして岐路に立った。たくさんの人に出会い、支えられ今日を迎えられていることは、本当に幸運だったと感じている。正に人との絆が私の人生そのものであり、財産である。

「人」という字は、いち「ノ」という字に支えがついている。人は一人では生きられない。支えがあつてこそ厳しい人生を生き抜くことができるし、一人前の人間である。この言葉は私の中学時代の恩師の言葉であり、「絆」の大切さを教えてくれた言葉である。そう言えば、仕事柄、教え子の同窓会にお招きをいただく機会が多いが、中学時代はあまり目立たない、特に学業優秀でもなかったのではないかと

考えた生徒が、社会で成功し、生き生きと活躍していることが多々ある。たいへんうれしく感じるが、ある時ふと彼らに共通点があることに気がついた。それは、友達がたくさんいたということである。

#### 家庭での絆

人として、基本的な生活習慣、豊かな心、規範意識などの教育の原点は家庭にあると文部科学省などの各種答申は述べており、子どもが最初の絆を育むのは親子であろう。

ある大学の幼児教育者の講演での話であるが、乳児は空腹になると泣く。母親は温かく柔らかな胸でしつかりと抱きしめ、授乳をする。乳児は空腹を満たし、自分の欲求を満たしてくれた母親に対して信頼感が育まれるという。しかし、紙おむつは大変便利で、蒸れることもなく排尿後も快適である。不快で泣いて助けを求める必要もないのである。そのような環境では、親子の絆が希薄になっていくのではないかと警鐘を鳴らしていた。また、おむつの取れる年齢が大きく上がっていることを報告している学者もいる。

以上の点を考えると、親子の絆作りについては、子どもが問題を解決する場面で、温かく見守り、安易に手を貸さず、助けを求めた時に初めて支援する場面を多く作ることが必要だろう。

#### これまでの取り組みの成果と課題

- 一、評価できること
  - ・ 町づくりに対する町民の思いは、行政の指導で小学校区単位のコミュニティを開設し、事務局および主事を設置することとなりました。また、推進の要としてボランティア活動を組織し推進したことは、先進的取り組みとして注目を集めたところであります。しかしながら、推進者の立場から住民の立場からも、問題は少なくないと思っております。
- 二、今後の課題
  - ・ 町づくり人づくりの原点をもう一度確認しあう。
  - ・ 「住みよい地域づくりとは」の洗い直し。
  - ・ 地域で主宰者を育てサポートする。
  - ・ 地域の一員の役割として声を上げることの大切さと、感謝の心を表現する人を増やす。



今泉さん

## 「絆を大切に 町づくり人づくり」

有識者

#### 今泉 盛剛さん

絆とは、『広辞苑』によると、「馬や犬、鷹などの動物を繋ぎとめる綱」「断つに忍びない恩愛」「離れがたい情実」と説明されていますが、これは、町づくり人づくりの根本だと思えます。

#### 今なぜ絆を大切にするのか

今日のような激変の社会は、そのスピードや多様性の中で人の心を不安にし、地域のぬくもりや協同する喜びを弱くしていきませんか。このような中で、私たちは、今まで以上に人間らしさのつながりや、地域の力を切望している今日であると思えます。

その意味で、地域で悩みや不安を抱える人が見られるのは、個人からいえば、友達がいない、相談相手がない、そして、予想もしないことが社会に頻発するなど、安心した住みこちが十分とは言えない思いがあるのだと思えます。地域では昔、井戸端会議などで情報交換や向こう三軒両となりの豊かな地域力を味わうことができたのですが、昨今ではどうでしょうか。地域の一人として認められる安定感・地域の人・もの・こと、に頼れる思いや絆を感じるような地域づくりが、さらに必要になってくると思えます。



家族や周りの人との絆の大切さについて語る宮川花子さん

「転ばぬ先の杖よりも転んでも起きあがる心を育てる」ことが大切ではないだろうか。

例えば、家族でキャンプに行った時である。お父さんの出番であり、日ごろの罪滅ぼしにと、飯ごう炊飯やバーベキューの準備をする。子どもは手伝いもせず、遊んでおり、料理ができあがると「できたよー」と声をかける場面が多いのではないかと。

これでは、せっかくの機会を無駄にしているのではないかと思う。子どもには薪拾いをさせ、火の付け方を教え、危なくとも包丁を持たせ、共に汗をかき、苦勞を分かち合うことが子どもの大きな感動を育むものであり、親子がお互いに協働して多くの体験を共有することこそが親子の絆づくりの秘訣かもしれないと考えている。

#### おわりに

子育て4訓

- ・ 乳児はしっかりと抱きしめなさい。
- ・ 幼児は肌を離して手をつなぎなさい。
- ・ 少年は手を離して、目を離さない。
- ・ 成年は目を離しても、心を離さない。

これは以前、須恵町長の中嶋裕史氏があいさつの中で話されていたお言葉である。どうしても紹介しなかったので書かせていただいた。親子関係や「絆」の在り方について示唆したものであると思っている。

#### 今後大切にしたいこと

- ・ 向こう三軒両となりの温もりや事業を通して培った絆の現状を、個人や地域別にとらえ、フィットする取り組みをどのように作るか。
  - ・ 今しかない子どもたちの発達刺激を重視した明日を担う人づくり、町づくりの充実。
  - ・ 小さなやる気を芽吹かせるような条件整備に努め、地域づくりの要となる主宰者を更に充実させる。
  - ・ 本町の取り組みが他から注目されている良さが住民のエネルギーになるよう啓発する。
- 町づくり人づくりで、これまで須恵町が取り組んできたことを基に
- ① 計画
  - ② 実施
  - ③ 評価・改善
- を、住民主体の視座から充実させ、絆を大切にしたいオンリーワンの取り組みがさらに発展するように、みなさんとともに汗をかきたいと願っています。

#### 社会教育委員：

学校教育および社会教育の関係者ならびに学識経験のある方から選考され、社会教育に関し、教育長を通して教育委員会に助言を行うため、教育委員会から委嘱された人です。